

お茶の水女子大学 文教育学部 言語文化学科 日本語・日本文学コース	
卒業論文題目一覧	
2024年度	合議・相談からみる『古事記』の統治体制と統治者像
	万葉集の桜の歌について ―桜を女性にたとえる表現―
	姨捨歌考 ―内容と起源を中心に
	母子の糸で紡がれる物語 ―『落窪物語』における実母と継母の役割―
	『源氏物語』葵の上論 ～葵上の機能性について～
	『源氏物語』雲居雁論 ―家庭で生きる女性として―
	『源氏物語』の少女性愛論 ―『ロリータ』を通じて―
	『源氏物語』における女子教育論
	『更級日記』から見る『源氏物語』
	『竹斎』の研究
	『諸国百物語』の研究
	江島其磧作『契情お国哥舞妓』『真盛曲輪錦』『咲分五人媳』における演劇受容についての研究
	『雨月物語』 「蛇性の姪」の研究
	桃太郎話の形成から見る黄表紙桃太郎作品の誕生
	泉鏡花『神鑿』論 ―幻想空間の人形と「父」―
	初期志賀直哉における客観性をめぐる試行 ―『剃刀』から『范の犯罪』へ―
	『異端者の悲しみ』における妹の死について ―〈生活と芸術の一致〉を手掛かりに―
	萩原朔太郎詩における「青」と「白」の象徴性 ―時間的变化に着目して―
	梶井基次郎「ある崖上の感情」論 ―「恍惚」の正体―
	『新青年』と女性たち
	植民地文学の政治的表象 ―金史良と張赫宙を視座に
	『赤とんぼ』の綴方と戦後教育 ―家庭・学校・文学の狭間で―
	『人間失格』に至るまで ―太宰治の後期作品におけるフィクショナルリティ
	北園克衛の戦後思想 ―詩論と個人詩集『黒い火』から―
	戦後少女文体の変遷と吉本ばなな ―読者投稿と少女小説を視座に―
	日本児童文学におけるファンタジー成立の過程を探る
	仮定条件表現に伴う副詞モシとタトヒの比較 ―条件節の通時的分析を通して―
	「死」を表す動詞の通時的研究
	詞章変遷から見る謡曲における文語意識
	文献資料から見る九州方言
	縮小率の異なる要約文的要素を持つ宣伝広告文についての分析―書籍のパラテキスト類の比較から―
	日本語教材における男女差のある文末表現の扱い ―出版年代による変化に着目して―
	絵本の文体の変遷 ―子どもの言語発達への影響に注目して―
	日本の流行歌の歌詞に見られる他言語の受容 ―日本語と他言語の混交文に着目して―
	「アンサーソング」の歌詞分析 ―原曲との結束性に着目して―
	食感覚表現サクサクの意味変化 ―類義オノマトペと比較して―
	X Y A B型複合オノマトペの語構成から新語形成まで ―「どたばた」から「ふわとろ」へ―
	実演販売における語りの構造と語りかけ表現の分析―対多の語りにおける聴衆に対するアプローチ―
	談話相手の地域による発話モードの切り替え―同一方言話者2名と他地域方言話者との談話から―
	継子いじめ譚『落窪物語』構成における巻四の位置づけ―計量分析による別作者説の検討と孝思想の影響について―
	『枕草子』 「三条の宮におはしますころ」段に関する考察―定子・清少納言主従のやり取りに着目して―

2023年度	『源氏物語』光源氏と惟光の主従関係 ―史実の乳兄弟における主従関係と比較して―
	『源氏物語』御法巻における源氏と紫の上の関係性―「萩の上露」詠の「露」を軸とする表現の連繋―
	歪められた義仲像 ―勝者・頼朝と比較して―
	永井堂亀友作『世間旦那気質』の研究
	『傾城買四十八手』の研究
	泉鏡花の「悪獣篇」における怪異と音律の関係―自然主義との対立を中心として―
	夏目漱石の競馬表象
	「まぼろしの他者」の発現とまなざしを向ける世間―芥川龍之介『二つの手紙』におけるドッペルゲンガー表象―
	武者小路実篤『友情』論―作中人物の在り方とその意義―
	志賀直哉『菜の花と小娘』における「弱者救済」―『小僧の神様』と比較して―
	平林初之輔の評論活動におけるジャーナリズムと大衆文学
	徳永直の天皇表象―『太陽のない街』と『妻よねおれ』から―
	物語の女だけじゃない―宗瑛の作品や文壇における立ち位置を見直す―
	夢野久作作品における女性表象―「幻想」の婦人と「反逆」の少女
	託される反逆者・サド―遠藤周作のマル・キ・ド・サド受容
	三島由紀夫の共同体観―『美しい星』を中心に
	思想と方法―吉井由吉試論―
	加害性の欠如―一九五〇年代と八〇年代の戦争児童文学―
	震災後短詩研究―震災詠と〈当事者〉性について―
	なぜ子どもが欲しいのか―村田沙耶香と子産み―
	災害関連語の受容と変遷について―〈地震〉を中心に―
	大蔵虎明本と大蔵虎光本における待遇表現と感動詞の比較研究
	近畿中央方言における”エライ”の副詞的用法―意外性に着目して―
	大正昭和期の児童雑誌『金の船』『金の星』に掲載された広告に見える読み手意識―構成・文体・語彙に着目して―
	強調表現「えぐい」「やばい」「すごい」の副詞的用法・形容詞的用法と語末の脱落に関する研究
	現代雑誌のキャッチフレーズに見る男性像や女性像に関する表現―人物の特集記事を中心に―
	文庫本の裏表紙のあらすじからみるあらすじと要約の違い―あらすじの広告的役割に着目して―
	同一作品を用いた児童向けの文章と大人向けの文章の比較―表記に着目して―
	メイクアップ化粧品のキャッチコピーの分析
	手順説明場面での「Vていく」の新用法―料理動画を資料として―
	『千と千尋の神隠し』におけるキャラクター属性区分からみた役割語とその有用性
	複合終助詞「かよ」の新用法―X (Twitter) 上の使用に注目して―
	X (旧Twitter) における助動詞「ウ」・「ヨウ」の末尾ウ脱落型動詞の使用状況と特徴
	X (Twitter) に見られる「一生」「永遠」の新しい副詞的用法の出現と実態
	新しいミ形の後方共起語の研究―Twitter (現X) を用いた調査から―
	ネパール語を母語とする日本語学習者の発音習得についての研究：コミュニケーションにおけるアクセントの重要性について
	『万葉集』大伴家持のホトトギス詠にみられる特異性
	月に関する共感覚的表現―新古今期の和歌を中心に―
	尾張藩初代藩主正室高原院作『御道記』に関する一考察
	『西鶴諸国ばなし』巻二の一「姿の飛び乗物」考
	『万の文反古』の研究 ―「この通りと始末の書付」「人のしらぬ祖母の埋み金」に着目して―
	『英草紙』における都賀庭鐘の工夫―原話との比較から―
	文芸作品における石川五右衛門の受容―『絵本太閤記』を中心に―
	菊池寛『真珠夫人』と『受難華』の比較―貞操論争と母性保護論争を踏まえて―
	梶井基次郎の視覚性

2022年度	プロレタリア文学研究—芸術大衆化論争の再考—
	昭和初期のエロ・グロ・ナンセンスと足フェティシズム
	戸坂潤の文学論
	後期織田作之助研究——「可能性の文学」から『土曜夫人』へ——
	戦後の高知県における文学運動の研究
	都市表象の変化から読む川端康成の中間小説—戦後東京を映す鏡として—
	福田恒存研究—小林秀雄との比較を通じて—
	「もの言う動物」の歴史的変遷を辿る——日本児童文学史の展開に着目して——
	アニメ作品における動物キャラクターの言葉遣い——文末表現を中心に——
	キャラ語尾についての研究
	初対面会話における対目上／対目下情報提供のストラテジー——「自分語り」をめぐるポライトネス——
	メイクアップ化粧品の商品色名の分析——カラーバリエーションごとの違いに着目して——
	映像作品の翻訳に見られる女性の発話の研究
	ゲーム実況動画における実況者の独話的発話の分析
	スポーツ実況におけるアナウンサー及び解説者の配慮表現——野球中継を中心に——
	オノマトペの日英比較——バトル漫画に着目して——
	青い鳥文庫作品のタイトルの研究
2021年度	『古事記』における異界の位置—「坂」を中心に考える
	万葉集巻十九における読添の特徴—巻六との比較による考察—
	屏風歌にみる伊勢の歌風
	『落窪物語』のあこぎが果たす役割についての研究
	『源氏物語』における「かをる」と「にほふ」の研究
	『清少納言集』二系統伝本の比較と考察
	『堀河院百首』における万葉集享受—地名・歌枕を中心に—
	慈円の自然詠が持つ特徴についての考察
	永福門院叙景歌の特徴—「永福門院百番御自歌合」を中心に—
	『徒然草』における『枕草子』ものづくしの受容について
	『徒然草』における「心」の問題—問い続ける兼好像を視座に—
	『伽婢子』の研究
	『武家義理物語』の研究
	西鶴作品における女性と芸能についての研究
	浮世草子に至る歴史人物の描き方——変遷と背景——
	『雨月物語』考——男女の心の断絶の物語——
	『噫無情』に見る黒岩涙香の翻案方法
	萩原朔太郎の前期詩作における「言語感覚」—『月に吠える』『青猫』に見られる「音楽性」—
	規範に抵抗する作家・岡本かの子論
	霧消する「私」の鏡像——一九四〇年頃の太宰治作品における自己客体化の問題——
	坂口安吾における〈人ならざるもの〉の研究
	孤独な家長——山崎正和の戯曲と評論を繋ぐ
	小川洋子作品における「聴き手」存在の研究
	「イルカセ」の歴史的変遷——発音・表記を中心に——
	パレト写本に見える表記の特徴——誤表記を中心に——
	明治期『太陽』に掲載された広告の文体と語彙の特徴—口語体と外来語に着目して—
	女性装の文体における語りの「中性化」
	現代小説作品における発話の文末表現に表れる性差
	過剰を表す「すぎる」における自動詞と複合動詞の働き
	ラジオ番組におけるメールを含んだ談話の研究

	スキンケア商品の表現に見る性差——男女ファッション雑誌に着目して——
	邦楽のタイトルにおける外来語・外国語の使用——言語構造と表記に着目して——
	女性を主人公とするディズニー作品における一人称と文末表現の特徴
	ファッション誌における接尾辞「感」の研究——性差と年代差に着目して——
2020年度	弟日姫子譚の新たな読み—主人公を女性首長と捉える視点から
	月の見立てについての一考察—八代集を中心に—
	『枕草子』の雨についての一考察
	新古今和歌における「めづらし」への挑戦—『水無瀬殿恋十五首歌合』を中心に—
	『伽婢子』に見る宗教性
	『金玉ねぢぶくさ』『城の伊織の介が事』考
	江島其磧の気質物における笑いの意匠—『世間娘気質』を中心に—
	近世小説における地獄の描写についての研究
	江戸の名所を詠んだ狂歌についての研究—天明老人編『狂歌江都名所図会』を中心として—
	夏目漱石『行人』の主題—精神病の「娘さん」を視座として—
	山本有三『路傍の石』における父親的存在
	太宰作品における聖書の受容 —弱者の聖性について
	宮沢賢治作品における〈寶石〉表象—童話作品を中心に
	沖縄文学に見られる〈主体性〉のゆらぎ
	『信頼できない語り手』のテキスト戦略
	漫画「名探偵コナン」の台詞から見るキャラクター性
	「月9」ドラマにおける20代の男女のことばの特徴とその変遷
	女性らしい言葉遣いに対する男性の認識—ゲーム実況のセリフに注目して—
	ファッション誌のターゲット層による見出しの語彙及び表記の差異
	L'Arc~en~Cielの歌詞の表現特性
	食品 CM における飲食物の評価表現
	ライトノベルと非ライトノベルの計量分析—文・語の単位から—
	類義語「ヒット」「ブレーク」「流行」の意味相違に関する考察 —使用対象と共起語に着目して—
	接尾辞「感」の研究：前接する要素と意味に注目して
	日常会話における程度強調語の使用実態
	過剰を表す「すぎる」の用法—自然談話とTwitterでの用例を中心に